

鵜殿 里菜

Rina Udono

長引いた外出自粛に、おうちで楽器演奏を始めたたり、再開したりした人は多かったのではないのでしょうか。習い事として始めたピアノの道を突き進み、現在ソロだけでなく、新曲初演、器楽伴奏、室内楽分野でも幅広く活動しているのが鵜殿里菜さん。大学院在学中より数々のコンサートに出演しています。

幼少期からピアノに魅かれ 毎日欠かさず練習を続ける

幼稚園の先生がピアノを演奏する姿に憧れたという鵜殿里菜さん。「自分もピアノを弾きたい」と母親にお願いするも、小さい子の言うことは気まぐれと1年間は許してもらえませんでした。それでもピアノを弾いてみたいという意志を貫き、母親に許しを得て念願成就。4歳からピアノを習い始めました。

幼少期から真面目すぎる故に融通が効かない、頑固な一面もあり、病気の時以外、日々の練習を欠かしてませんでした。友人と遊びに出かける時も自ら門限を17時に設定し、帰宅後はピアノに向き合いました。

小学5年生のころには、本格的にプロの道へ進むと決意。プロのピアニストの指導で、新たな技術や表現を学んだのがきっかけでした。演奏の楽しさや充足感にやりがいを見出し、小学生時代は臆せず伸び伸びとピアノを続けます。

ところが中学、高校時代には、緊張するあまり思い通りの演奏ができなくなっていました。「つい気弱になつてミスをしたり、萎縮した演奏になつたり、本来の力を出せませんでした。自分をよく見せたい。そんな余計な心理が働いていたのだと思います」と当時を振り返ります。

スランプを乗り越切れたのは浪人時代。「練習した以上の力が出せない。その時に弾いている空間で音と向き

理想を追い求めるあまり、苦しんだ現実とのギャップ。「音と向き合う気持ちを忘れないで」。救ってくれたのは恩師の言葉

合う気持ちを忘れないで」。レッスンの通っていた先生がかけてくれた言葉に、自分の弱さを認める強さを学びました。

アンサンブルの経験も、成長をもたらしました。アンサンブルでは、リハーサルでメンバーと曲の解釈をすり合わせ、一つの曲を作っていきます。意見が異なっても音を出してみれば、どうすればよいかの答えはすぐわかるそう。「自分一人ではなく誰かと一緒に弾いていると、音の厚みが増して心強いです。本番中でも、この人がこうアプローチするのなら私はこんな風に演奏をしよう、などアイデアが広がります」

演奏会がいよいよ再開 半年以上ぶりの舞台上に感動

鵜殿さんの演奏は、ピアノ一台とは思えない重層的な音色が特徴です。



上)幼少期に使っていたキーボード
下)これまで使いこんできた楽譜も大切にっています



小学1年生の時、初めてピアノを買ってもらった際の写真

特にドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス、ロシアのセルゲイ・プロコフィエフの曲が好きで、演奏を聴いた人から、「あなたの豊かなピアノの音色によく合っているね」と評価されたことも。曲の良さを聴いている人に伝え、



Profile

鵜殿 里菜さん Rina Udono

土岐市出身。4歳よりピアノを始める。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科鍵盤楽器領域博士前期課程を修了。第14回日本演奏家コンクールピアノ部門高校Aの部特別賞、第21回東三河PTCピアノコンクール高校・大学一般B部門銅賞。第11回ペーテン音楽コンクール大学院生Aの部第3位

これからの予定はウェブサイトをチェック! pianoudonorina.amebaownd.com/

共有できる演奏を心がけています。

「これまでで思い出深い演奏は」という問いに、鵜殿さんが挙げたのは、大学3年生の試験で披露したフランスの作曲家、シャルル・カミーユ・サン＝サーンスの『ピアノ協奏曲第5番エジプト風』。エキゾチックで哀愁のあるメロディーが好きで選んだ曲です。高い評価を受けた以上に、満足のいく演奏ができ、手応えを感じられたことが糧になりました。

昨年、開催した名古屋市内の養護学校でのコンサートも、印象に残っています。「演奏中声を出しても、動いてもらつても構わないと、事前に伝えるところ、一緒に歌ってくれたり、身体を揺らしてくれたり、とにかく反応がストレートに返ってきてうれしかったですね。静かな曲の時には雰囲気を読み取って、集中して聴いてくれました」

新型コロナウイルスの蔓延によって、6月に予定していたソロコンサートや、出演するはずだったイベントが軒並み中止に。アウトプットの場がなく、どうすれば良いのかモヤモヤとしながら日々を過ごしていました。そんな中、ようやく9月にホールでの演奏を迎えます。半年以上ぶりのホールコンサートに緊張は高まりましたが、久しぶりに聴いてもらえるうれしさや観客の温かさを感じられ、演奏後も興奮さめやらず、身体が熱くなったといいます。

地元でも演奏会を企画し クラシックの良さを伝えたい

地元でも精力的に活動しています。2006年には多治見市で「永保寺再建チャリティコンサート」に参加。そのほか、土岐市での「スプリング夢コンサート」への出演や、恵那市の保育園や中学校では音楽鑑賞会を行ってきました。「これからもっと、地元で演奏する機会を増やしていきたいです。蔵など普段、演奏したことがない場所を会場にしてみたい」と鵜殿さん。「小さなお子さんからお年寄りまで、クラシックだからと身構えず、気軽に来ていただけるコンサートを開催していきたいです」



上)2018年、名古屋市内千種区の5/R Hall&Galleryで初となるソロピアノリサイタルを開催しました

左)2015年、土岐市で行われた「スプリング夢コンサート」にて

ね」と続けます。

演奏面では、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの『熱情』、フレデリック・ショパンの『パヴァーディ』など、これまであまり弾いてこなかった定番曲を会得したいと抱負を聞かせてくれました。「有名な曲を堂々と弾けるよう挑戦したいです。失敗を恐れて避けてきた部分もありますが、知っている曲があるコンサートの方がお客さんも聴きやすい。将来、この人の演奏だつたら聴きに行きたい、この人だから一緒に演奏したい、と思ってもらえるピアニストになるために頑張ります」と、眼差しを未来へと向けました。